
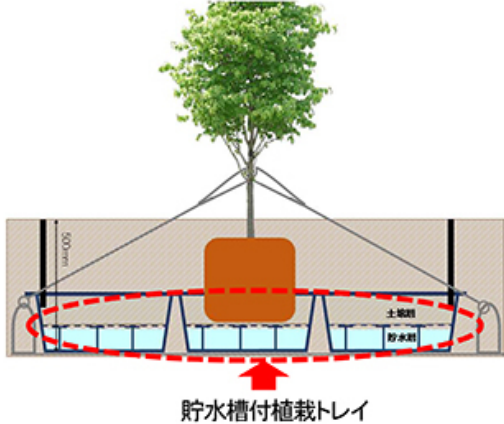


「グリーンインフラの高度化に関する実証実験」を開始 ～2025年大阪・関西万博にむけて～

住友林業株式会社(社長:光吉 敏郎 本社:東京都千代田区)は「グリーンインフラの高度化に関する実証実験」を10月18日から開始し、気候変動による緑化用植物の被害を抑制する技術を実証します。本実証実験は、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と大阪商工会議所が公募した「2025年大阪・関西万博の会場である夢洲での実証実験」で採択されました。大阪府、大阪市、大阪商工会議所で構成する「実証事業推進チーム大阪(以下、「推進チーム」)」が実証実験の円滑・効果的な実施を支援します。推進チームの協力の下、万博開催の機運醸成と未来社会を見据えたイノベーションの創出を目指します。

◆実施概要

<p>日時</p> <p>場所</p>	<p>2021年10月18日(月)～2022年10月24日(月)</p> <p>舞洲スポーツアイランド 舞洲中央運動場付近 ※実験実施に向けた協議・調整の結果、舞洲地区を選定</p>  <p>大阪港にある人工島(舞洲)</p>
<p>実験概要</p>	<p><実験実施の目的> 地球温暖化による気候変動で都市部でのヒートアイランド現象や、ゲリラ豪雨による浸水被害が社会課題となっています。自然が有する機能を活用するグリーンインフラの整備が解決策として期待されますが、風が巻き上げた海水による植物への塩害被害、強風による倒木被害も多発しています。これらの課題に対応するため、本実証実験では「耐潮性及び耐風性がある植物の選定」と「雨水や灌水の余剰水を効率的に利用するための植物育成法」を検証します。</p> <p><実験方法> 潮風の影響を受ける場所で、耐潮性があるといわれている14種類の植物を植栽します。植栽には雨水を貯水出来る貯水槽付植栽トレイ※を用い、耐潮性や耐風性、貯水槽付植栽トレイの適応性を検証します。※降雨が1週間以上ない場合は灌水を行う。</p> <p><実験図></p> 

住友林業グループは、今回の検証結果を活かし都市部や臨海エリアでの自然共生を可能にするだけでなく、高度化したグリーンインフラを通じ社会課題の解決に取り組んでいきます。将来的には木造建築物と豊かな緑による環境木化都市を実現させ、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

以上

◀ リリースに関するお問い合わせ先 ▶

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション部 河村・平川

TEL:03-3214-2270

◀ サービスに関するお問い合わせ先 ▶

森林・緑化研究センター 磯貝・二瓶

TEL:03-3214-3635